

## 先端医学推進拠点

### 痛み脳科学センター

教授：加藤 総夫 (神経科学研究部)	神経生理学, 疼痛科学
教授：大橋 十也 (遺伝子治療研究部)	遺伝子治療
教授：上園 晶一 (麻酔科学講座)	麻酔科学

#### 教育・研究概要

本学先端医学推進拠点群の第1号である痛み脳科学センターは、文部科学省平成25年度～平成29年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業：痛みの苦痛緩和を目指した集学的脳医科学研究拠点の形成」(S1311009)の支援を受けて痛み脳科学研究を推進する拠点組織として2014年4月に発足した。同事業は2017年度で終了し、研究成果報告書(2018年度)を文部科学省に提出するとともに同報告書を痛み脳科学センターホームページにおいて公表した。

本学先端医学推進拠点群の規程に従い、痛み脳科学センターは、痛み関連の研究を推進する研究拠点として存続し、学内、学外のさまざまな研究者が個々に多種の競争的研究費の支援を受けて研究活動を推進した。特に、痛みを重要な臨床ならびに神経機能上の問題としてとらえる研究者によって、I. 共同研究活動、II. セミナー、勉強会などの活動、III. 対外的広報活動、などが推進された。

このような活動には、総合医科学研究センター・神経科学研究部、遺伝子治療研究部、再生医学研究部、臨床医学研究所、麻酔科学講座、整形外科科学講座、リウマチ・膠原病内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、薬理学講座、産婦人科学講座、皮膚科学講座などの教員、大学院生、および、医学科学生などが参加し、これらを中心とした共同研究を推進する拠点として機能した。また、上記事業で揃えられた研究機器類は、ほぼフル稼働の状態で多くの部門の研究者によって継続的に活用された。2018年度以降、対外的に「痛み脳科学センター」の所属での発表・発現・原稿執筆・メディア活動などを行ってきた。なお、これらの本学各部署によって本研究センターの一環として推進された研究活動・成果は個々の部署の報告に記されており本項においては重複的に紹介しない。

#### 「点検・評価」

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業としての支援が終了したため、2018年度には財務的・人事的支援なく活動を継続した。本事業は、文部科学省によって発展的に打ち切られ、2016年度より私立大学研究ブランディング事業として新たな応募を開始したが、この新事業では、同一大学が複数の事業を推進できないという制約があり、本「痛み戦略」課題採択時点で5課題採択されていた本学にとっては大幅な公的研究費補助の減少となった。また、私立大学研究ブランディング事業も、文部科学省幹部職員の事案医によって途中で打ち切られたことは記憶に新しい。大学全体の研究活動の低活性化を懸念する。

本センターは、すでに5年間の国際的研究活動によって、日本でもユニークな「痛み脳科学」の研究拠点としての基盤を確立しており、本学の特色を生かした臨床医学・基礎医学融合型研究推進体制を確立したセンターとして、その構成メンバーによる継続的な研究費獲得によって活動を続けている。本センターは専任の教職員を置かず、痛み脳科学関連領域の研究を推進する学内外の研究活動がその業績である。今後、臨床医学と基礎医学を結び、全人的な医学を目指す本学にとって、疼痛医学はさらなる重要性を持つ領域である。今後、センター内組織の整備と拡充を図り、戦略的研究基盤形成支援事業のlegacyを引き継ぐとともに、新たな研究推進体制を構築し、積極的にこのセンターの存在を対外的にアピールしていく。特に、本センターは、痛みやそれに関連した症候に関連した研究を推進しようとする本学の若手研究者の研究推進や相談、情報交換の場としてすでに機能しており、研究員登録制度の拡充もはかられて、まさに、臨床医学各分野と基礎医学研究を融合させようとする貴重な学術的「場」として本学における重要な位置づけを占めている。

#### 研究業績

センター事務局として研究の取りまとめを行う神経科学研究部の業績の中に、臨床医学系部局と痛み脳科学センターとの共同研究の成果を記載してあるので参照されたい。兼任する研究者の業績は主たる所属である神経科学研究部の業績に掲載してあるが、その一部は、痛み脳科学センターも付記して発表されている。